

吉風
談林
正風

魂
翫
大
系
圖
上

中村俊定文庫

文庫 18

855

1





市裳濯川やか茂花たのつ穂若
 尔澄ふ夏未成手に揃をこも原の海たて我
 志ハ市援姑掘の昨を洒た替あ来そつ風の
 棄つとくをほほすま本枯風のゆゆるる原を柵む
 たの穂めらこのつらるる神臨の山花あそらあそ来
 建ぬ斬乃葉れやとあそ言むハハ山笑倭歌の
 道六言の漲りかう浪の外あれても園まもあ
 八言と垣の杉をぬて成作くこにかさつ世結流
 歌てふも結こもつ世の神えをぬあ成えをいさ



と云ふよしありしに、いかにあつたか、
つたあつたか、一守武の令、あつたか、
捕も何れ、まゝの格、式をちり、れそ、
貞徳、海、津、一、も、
あつたか、言、名、の、
一流、
終、
妻、
糸、

(貳)

この流、
流、
生、
古、
そ、
事、
中、
龍、
の、

とう短大もまたかいつちも世より廣うなるやうに
 ありやのちの刊行も古くから年数如きことありし
 其の芳紙いさう無きやもあつらへりしものやと
 と此の海のちんくといふれいものやとて代述さ
 面をく知事ありあつちのち

お徳のは

天保九年戌のころ
 真楼實山筆

見ゆらそ

此譜乃道ふ名を人教かたむけたる
 免る我今世にあらはるる芭蕉の歌
 よび十指乃よとてふ子たよのまことの
 此の歌をいさるる人々の心なるを
 心ふるをいさるる人々の心なるを
 心をいさるる人々の心なるを
 真心の心なる人々の心なる

此道と阿陀らるるをこそこそ國樞書の為ハその餘
 光よも射らぬ所も、ハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 利比並ば石の上なる人こそこそ者も見れば
 乃上との風雅男もこそこそハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 志の流るるに我られた事事もハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 ねるるよハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 はハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 流るるハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

天保九年正月五日

生川春明

初集前後二卷引用書目錄

犬築波集

發句帳

淀川

底ぬ多白

紅梅千句

郡山

花月千句

玉海集

築子千句

鷲鷺千句

土塵集

三十六俳仙

砂金帛

常盤草

鸚鵡集

守武千句

鷹築波集

毛吹草

北野詠筆

正章独吟千句

口真似草

崑山集

玉海集追加

木玉千句

立圃諸国万句

祇園奉納誹諧合

歸花千句

砂金帛後集

古鑑

道連集

犬子集

初学鈔

毛吹草追加

二方二千句

氷室守

山乃井

美濃郡

萃直集

慈父追善九百韻

立圃都万句

埋草

懷子集

五條百句

尾陽句帳

佐夜中山集

絲瓜草
 片言
 続山乃井
 初元結
 浪花三十六俳仙
 到未集
 拾玉集
 慕啓集
 入聲集
 和歌竹集
 物忘草
 柁木葛
 雑巾
 玉くしげ
 詞友集
 新続独吟集
 境界集
 さげれ
 落穂集
 十種千句
 根おし草
 小町とざり
 名取川
 百人一句
 形見草
 公界集
 眉入奉公
 大海集
 ちやや
 新続犬築波集
 続詞友集
 釋教百韻
 続境界集
 増山の井
 山下水
 唐人ととり
 遠近集
 早梅集
 鄙諺集
 新百人一句
 世話焼草
 古今百句集
 大長刀
 捨子集
 思出草
 十會集
 続独吟集
 誌心集

吉野山独案内
 俳諧小式
 西行咎一万句
 鹿驚草
 鋸屑
 続大和順礼集
 一時雨百韻
 宗因句集
 河内名所集
 おとく
 了夕花千句
 中庸姿
 御田扇
 大井川
 俳諧京羽二重鉄本
 藤波集
 紙屋川水車千句
 寛悟集
 伊勢山田六人六百韻
 御傘大全
 鉋屑
 狂遊集
 太郎五百韻
 檀林十百韻
 延室二十歌仙
 櫻千句
 俳諧師字鑑
 短綾集
 室ぐら
 浪苔色紙百人一句
 おとひ牛
 繩すと礼
 大坂独吟集
 雀子集
 加友判百韻
 武藏野集
 大和順礼集
 俳諧蒙求
 次郎五百韻
 破邪顯正
 十歌仙各五
 四名集
 イスカノ紫
 重栄歌仙發句
 今様姿
 河むつし
 京の水
 江水百人一句

一橋
陸奥千鳥
誹諧秘密
類柑子
挑青一代記
源氏鬢鑑
三番続前句附
和漢文操
皮籠十札
本朝文鑑
鳥山彦
花摘
一騎弁
如孝參
雑談集
拾遺家譜補

時代不同發句合
梟日記
餞別五百韻
枯尾花
行狀記
塗笠
万歳樂附合
たつのもら
初心毛登柏
木花集
不角百人一句
其傘
空栗
幸佐品定
家譜
後拾遺家譜

苗代水
歷代滑稽傳
家の風
荒野集
桂姿
日本行脚文集
三河ころ
杷萱
鬼貫独言
小傘
綾錦
宇挑燈
続空栗
風俗文選
拾遺家譜
今宮草

山水付合
男振
橋屑
籠ぬ多
芦花集
如意宝珠
新玉海集
雅延醉狂集
一華堂選道遊集
後撰夷曲集
卜養狂歌集
負柙後家土産
可笑記
京羽二重
浪蒼雀
浪蒼鑑

江戸土産
漢和付合
江戸紫
似錦集
諸国独吟集
空林風葉集
住吉ととり
かくとがし
類従本道遊集
つとく草直解
卜養狂歌拾遺集
勢陽里言
山州名迹志
京羽二重織留
浪蒼霍
東海道名所記

抄群立
後集絵合千百韻
吉慶独吟集
而形集
幽山江戸八百韻
誹諧新式
櫻鑑
載恩記
古今夷曲集
曾呂利狂歌咄
負柙家土産
買物調方三合集覽
都独紫内別内者トハ
正徳板京羽二重
浪蒼霍跡追
国花万葉記

江戸鹿子

本朝武士鑑

平澤系圖

義人錄

俳人名錄

江戸某俳諧藏書目錄

怪談諸国物語

道枝折

東庸子

天和二年書籍目錄

元祿九年書籍目錄

享保五年書籍目錄

通計二百七十三部

引用スル所ノ書名ヲ限リニアラストイヘドモムゲニ近キモノハ是ヲ挙ズ
又書名ノ首ニ・ヲツケシハ俳諧古集作者盡ク引書ナリ
初集引用書目錄終

江戸番鑑綱目

武道傳來記

知譜拙記

雍州府志

古集作者盡

古今短冊集

貞徳永代記缺本

俳諧古選

寛文十年書籍目錄

貞享二年書籍目錄

宝永八年書籍目錄

宝暦四年書籍目錄

人倫訓蒙旨彙

頭傳明名錄

多我身之上

奈良名所八重櫻

俳人無名書

京童跡追

俳論

俳諧近選

延宝三年書籍目錄

元祿五年書籍目錄

正徳五年書籍目錄

合類書籍目錄

鼻祖守武長官之神像



春明謹寫

渡昆烏賣耶迦路魯侶師攻母
荷美乃幡留
字真比珠能半數面架難箇奴
哀鄧刀蟻秀

詩家大鑑

犬子集

寛永十年印本 松江重頼撰下之卷

稱道院ハ
道道院ハ
謬ナリ
三條西内大臣
実隆公御
トナリ

稱道院殿、宗鑑法師始て伺候の時、宗長法師
伴ひてゆくり出けり、稱道院殿御當座
宗鑑々姿をみれば、さきつむの
のよんとすれどあつの澤が
蛇り、おもしろくづらさるむ

右脇、宗長弟三宗鑑より以上、**犬子集**ニ載

崑山集

慶安四年撰明曆二年印本 長頭丸より天水と

云誂の道の一巻申されしひきの會よ

天水のわづやかこけ梨花 鶏冠井 良徳

一之巻春ノ部 いろしとし先師長頭丸より誂諧

ゆかりその名を得しと人があき身のぬかり葉

ともちもひあしけんと

接しめり、さぞめいぢくの花春 安原 貞室

○貞徳公初ノ名句ハ諸書ニ出テ人ヨク知レ所ナレハ畧ス

玉海集

松永氏道遊軒貞徳公
又 長頭丸 明心居士

鷹筑波集

寛永十五年撰同
十九年印本二卷

長頭丸の壽像とくせもび
百ふひいるみほひれども年
月かけく所望せよ

貞徳

絲がわくの我がはの世へ風とまて
月といそ〜花いち〜さ〜



玉海集

前二摹寫ナル花咲翁ノ壽像元禄六年京師ノ俳士堀江林鳩ノア
ハセル永代記返答のむつじ上卷ニミエタリ又後拾遺俳諧家
譜ニモ翁ノ像アリコレハ洛南上鳥羽邑實相寺傳フル所ノ木
像ヲ摹寫スル所トミレト麗画ニテ微細ナラズヨリテ爰ニハモラス

明暦二年印本 安原貞室撰冬ノ部三之卷

先師貞法居士の像とていつくけりて霜月十五日の
忌日よかけ追善の會と催りけり

霜月乃かやと脚影やいさうつ

澁谷安明

京童跡追

寛文七年印本

俳乃好人長頭磨の像とていつくけりて表補
繪とて真行つとてのうけ地をふすに讚せとていつく

けりていつくけりていつくけりていつくけりていつく

畚とていつく末廣城とていつくその礼紙よかきつ

末ひろや詞の花の御うらがさ 中川喜雲

延宝四年印本 夏之部五卷

む咲翁乃像とて蓮葉とていつく

北村季吟

續連珠

新波俳林

松芳行西齋

辭世 人らみそよ乃我の世に
秋よあままりいつく

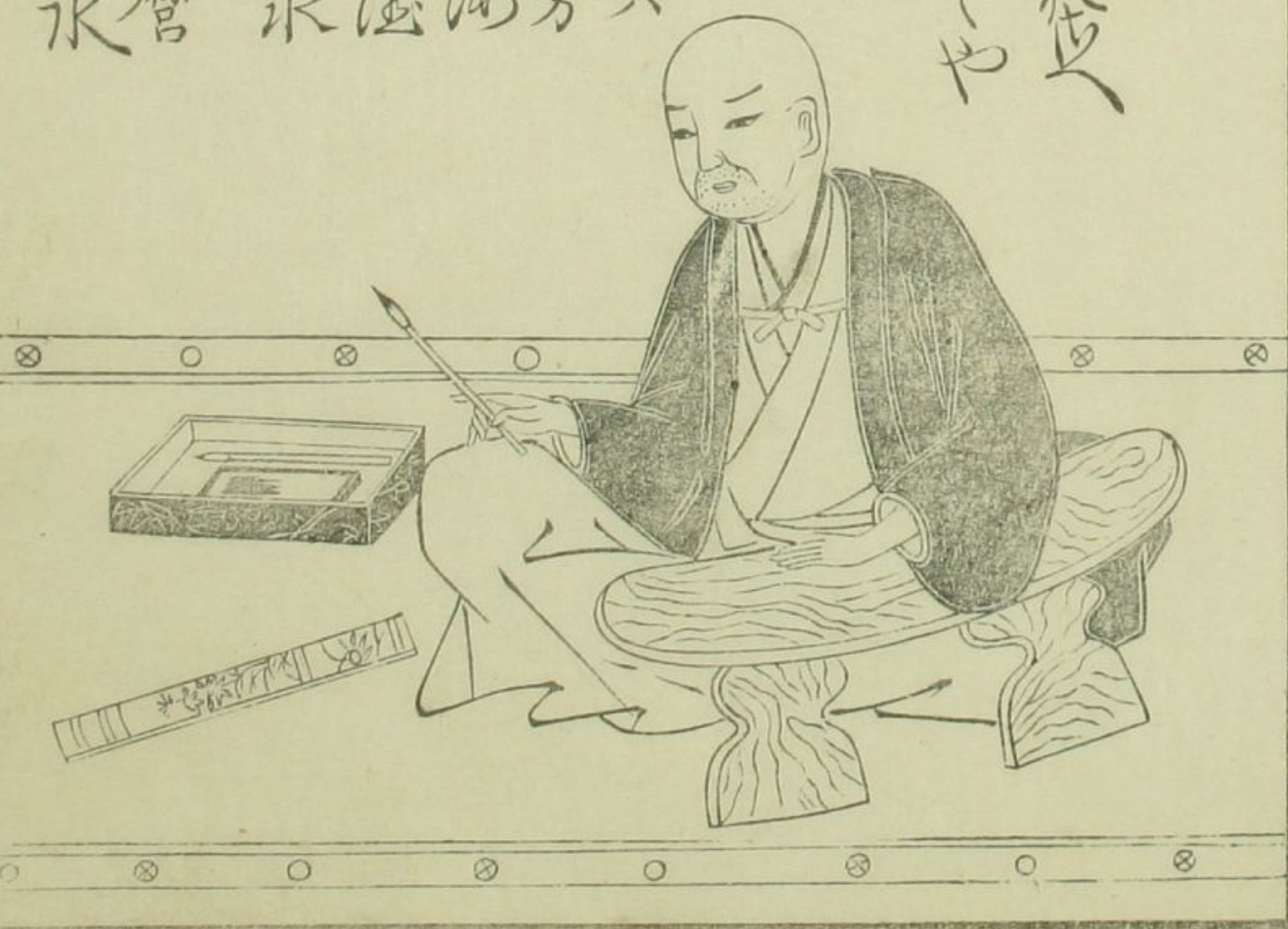
浮世の月をさしよけり 末二年

元禄六年八月十月二十八日

追善会句

月よあね世がりや二万三千の如真
念仏きくたは秋におんれ 幸方
秋の白の乃れ記作れ死の縁 万海
世のあやまの令れお所 信法
秋のつらいつる月と雪の漫言水
あま暑
はやは櫛ハ折もは秋の風 又磨
力たのやねとていつく 園水

非天ノ本圖ニ卷



詩家大系圖上卷

宗因句集

西山宗因翁ノ壽像未得コレヨリテ元禄六年平元堂團水ノ刻セル
置土産ニ見エタル西鶴ノ肖像ヲ臨寫シテコレニ載
結寫當世の風躰年々日々處々みうつり更ニ新
珍々初學人いげれとく思ひ定むる
あがも初學人いげれとく思ひ定むる
なぐやとくおがへ

檀林十百韻

今筑波や鎌倉宗鑑う犬ざくら
延室三年印本
左ノ句宗因江戸ニ下リテ吟テリコレヨリ
談林風ト云又自梅翁ト称ス
同
延室七年印本中嶋隨流編「去年の夏大坂
宗因と高政宅一請一會有一
末茂と守武流乃惣本寺
同

破邪顯正

○春明云右ノ句ヨリ高政惣本寺半連傳社ト号ス

左ニ抄出スル芭蕉翁ノ壽像ハ江戸ノ俳林太白堂天野桃隣ノ
元禄九年刊行セル

近世之祖松尾桃青翁像



芭蕉

松尾桃青

俳林太白堂

蕉翁ノ秀吟諸書ニ載テメシカラズ因之今爰ニ畧スコソゴロ貞室判セル
川路素謙ガ獨吟百韻一軸ヲ得テ餘帑アルヲ以テ摹シテ好古諸君子ヲナフ

花ららるるに
別カ
らむ

電
川長十三

一書新

川長十三

長月二句

年号ノサキニ貞室自詠ノ狂歌及
長文アリ帛面セキニヨリテ畧ス

誹家大系圖上之卷

伊勢津

生川春明著

○誹諧權輿

守武

正四位上荒木田神主

五十鈴

大宮ノ長官ナリ幼歳ヨリ

明悟識量有テ師木嶋筑波ノ二道ニ貫通シ種玉菴宗祇法師

ノ新撰筑波集ニ選ミイレル復誹諧ニ委ク其頃マテ二句三句ノ言

捨クニテ定タル格ナカリシヲ天文九年ノ冬初テ独吟ニ千句ヲ連子テ

此道ノ式ヲ定ム後世仰テ誹諧ノ祖神ト敬フ又大永五年一夜百首

和歌ヲ詠シ一首ゴト世中ノ二字ヲ讀イレ諸人ノ教誡トス傳テ伊

勢論語ト云 天文十八年己酉八月八日卒ス七十七歳

辞世 神路山我ニカケルゆくとるも峯の松風ノ

鼓句 あさぐわろくろくハ及申ノ我世ノ那

○天文九年庚子ヨリ天保八年丁酉ニ至テ三百九十八年

宗鑑

復曰鼻祖ノナガラクム 杉木望都。松田利清ノ輩及孫弟
等中編ニ委シ

支那氏俗稱彌三郎名ハ乾重雅髪ニテ宗鑑ト更云元佐々木ノ
黨ナリ幼歳ノ頃足利義尚公ニ任テ恩澤ヲ蒙ル後津ノ國尼ヶ崎ニ
住シ又西國ヲモク歸路暫ク讃岐國琴引山ノ邊ニテ假ニ居ラシム
一夜菴ト号ス晩年及テ城南山崎菴開戸院ノ傍ニ閑居シテ專誹
諧ヲ修ス家書 新撰大筑波集 竹馬狂吟集 等ナリ天文九
一年寂ス八十九歳京師天瑞寺ニ墓アリ宗鑑上座○行風法師ノ撰
メル古今夷曲集九之卷 哀傷部曰背ハ癩瘡出来テ身まゝ時詠
辞世 宗鑑ハひとり人の問ふハちと用らりてあのせしとい

梵益
除風

姓氏詳ナラス山崎菴宗鑑カ遺跡ニ住ス 正章貞室。季吟。
梅盛。重頼。等ヲ友トシ專誹道ヲコトス承應年間ノ人也
姓氏詳ナラス百花坊ト号ス宗鑑カ旧跡讃岐ノ一夜菴ニ住ス東
花坊支考 鼻日記元禄十一 年卯本オヨビ 和漢文標ニ出タレハ美濃風ノ
人ナルゲレド因アルヲ以爰ニ載ス

○中興鼻祖

并直弟

貞徳

松永氏幼名勝熊杜歳薙髪ニテ松友ト号シ軒ヲ道遊トナク晩年
復髻ヲ束テ童服ヲ着シ自ラ呼テ延陀丸又長頭丸ト云ハ永種
攝州高槻刺吏入江九郎盛重ノ男 五郎政重長子後氏ヲ改テ松永ト称ス母ハ播州宇野氏ノ女ナリ元龜二辛未
年ヲ以テ京師ニ生ス蚤歳ヨリ師木嶋ノ道ヲ好ミ 九條殿下玖山公
菊亭右相郷細川玄吉法印ヲ初トシテ師トス人五十有餘人充其精
微ヲ得テ殊ニ嚴父ノ志ヲ承テ連歌ヲ法眼紹巴ニ究始テ式ヲ連歌ニ
撮リ格ヲ誹諧ニ定メ編集シテ名ヲ御傘ト号ス始ハ三條大路住シ後五條
松原ノ北東洞院ノ東ニ移リ住ス花笑舎ト云 家書 御 傘

淀川

一名増大免致波 集ト云

油

必ラ三部書ト云

紅梅千句

百韻自註

前車集

天水鈔

源氏竟宴

堀川百首鈔

和歌宝珠

道遊集

戴恩記

徒然草大意

同慰草

貞徳文章

親重

相寺二葬ル 牌面二曰道遊軒貞徳居士

辞世 露のなきゆゑ衣の玉指首よりびりけぬ法ありなむ

野々口氏俗称ハ雛屋庄^{市兵衛}右門 薙髮シテ立甫ト号ス又自松翁ト称ス弱冠ヨリ才智衆人ニ秀テ殊ニ紫女ノ源語ヲ好ミ著ス所ノ册子文義ヲ通セリ一年重頼ト争論ニ才ヨリ師翁ノ氣色ヲ損シテヨリ烏丸亞相郷ノ学窓ニ参リ教ヲ受テ一流ヲ起ス世ニ立甫風ト云 家書

徳万歳 若きハ杯 片輪車 花火草

帰花千句 阿太花千句 筑子千句 花月千句

河ふ杯 江戸ひき流 硯むいふ 追善九百韻

万句 老鳥千句 空はぶて 都万句

花鳥千句 休息哥仙 人真似 九曲折

義濃郡 三十六會句合 明鑑 袖中記

十帖源氏 等アリ寛文九年酉九月晦日没ス行年七十一歳

法名日祐居士或ハ英家譜曰寛文十二年壬子三月十七日没スト

重頼

アレ氏誤ナリ形見草ヲ以テ改ム

辞世 月こゝろの三日月を今あるせう那

松江氏俗称大文字屋治右門 齋誹子又乳父子ト号ス晩年薙髮シテ維舟ト改メ自江翁ト称シ法橋ニ叙ス天性剛正ニシテ誤ヲ見テ止事ナレ是ニヨリテ諸彦ト交ヲ断コト尤多シ師翁ノ席ヲ退キテヨリ里村懐惠菴ノ門人トナリ連歌ヲ学ヒ歌意ヲ専ニシテ一流ヲ立ツ 家書

犬子集 毛吹草 同追加 梅千世

菊千世 懐子 同とくぎ 今様姿

名取川 佐夜中山 附リ鼻欠様 大井川

溜池河御座 維舟隨筆 武さし乃 浮世あざな

等アリ延宝八年庚申六月廿九日没ス 行年七十四歳

辞世 林禽もや菩提樹のつまらむ法あり

○再曰親重重頼ノ二叟破門トナリシ事別ニ委ニキ論アリ 安原氏俗称鎰屋彦左門 囊子或一囊軒ト号ス三條通梅忠町ニ住ス一年芳野山ニ遊ヒコレツノ句ヲ吐テヨリ英名ヲ四

正章

海三轉承應元年八月点業ヲ免サレ雜髮メ貞室ト号シ正傳ニ
世花ノ本ヲ續カ師翁没メ後遺書玉海集七卷ヲ補選ス晚年病
ミテ歿ントスル期我カキスニ筆蹟ヲ集テ火中スト 家書
玉海集 同追加 百韻自註 獨吟千句
氷室守 五條百句 一名雪月花集 片こ
附合大全 此書字本ヨシ池田是誰寛文三年印本玉之ハニアリ
延宝元年癸巳三月七日没ス行年六十四 實相寺牌面曰一囊軒
貞室 寛文又延宝二年ノ没トスルハ誤ナリ

辞世 今まて八月又せぬとも主人公とつくとひ一年も明かり
○再曰歷代滑替傳三「安原貞室ハ中年迄いふふと知らそ一
とせ加州山中の湯主和泉屋又兵衛といふもの小耻いめいそ
帰洛して貞徳の末の門人と成志あつくと終ふ此人は花の
本と譲て貞室とふの云々」此説誤ナリ貞室正保四年獨
吟千句ノ跋ヲ見ルニ自ラ明ナリ
雞冠井氏通称九郎衛門初良徳後令ニ改ム陀隣軒ト号ス貞翁ノ
愛弟ニシテ排式天水鈔ヲ譲リ賜フ京師ノ人ナリ 崑山集ニ崑
山錦トアルハ別

令德

西武

家書

崑山集

土塵集

号ニテ道可トアル
法名欽尚考ベシ

親炙 四十餘年 等アリ

延宝二年甲寅三月三日没行年六十八 或云延宝七年九十一

山本氏俗称綿屋九郎左門剃髮シテ西武ヲ音ニ號テ法名トス
無外軒ト号ス三條東洞院蛸藥師ニ住ス曾テ蚤歳リ師家ノ
執筆ニ給ス故ニ秘決故實等悉ク傳習セリ翁ト正章西武ト
每歳三物ヲ組テ他ニ許サス 家書 鷹筑波集

砂金袋 同後集

久留々

萩

花

何迄草 阿波々千句

津似居兒

御傘西武補

没年不詳 家譜ニ曰延宝六年戊午二月十八日没行年七十三ト

アレト貞享二年印本 京羽三重俳諧師ノ条ニ此叟出タレハ貞享ノ

頃マテ存命セシ欽同書元録二年ノ 織留ニ不見

辞世 夜の明く花のひびくや浄土門

北村氏通称久助蘆菴ト号ス又拾穂軒湖月齋七松子ト号ス
父宗龍 連哥香道ヲ能ク以テ初メ京師山伏町ニ住シ後新玉津嶋社
中ニ居ス晩年台命ニ依テ東武ニ參仕シ法印ニ叙メ再昌院ト号ス

季吟

仰テ歌學所トス弱冠ヨリ國史歌集ヲ熟覽シワキテ源語ニ
會通シ著ス所湖月鈔註解精密ニシテ後世龜鑑トナル

家書 御傘大全 寫本テ十卷 山乃井

增山の井 續山の井 師走の月夜 花千句

蝨集 埋木 同増補 新續犬筑波

十會集 哥仙發句 二十會集 續連珠

三物記 誹諧合 室咲百韻 万葉集鈔

八代集鈔 土佐日記抄 伊勢物語鈔 大和物語鈔

湖月鈔 春曙鈔 百人一首抄 徒然草鈔

室永二年乙酉六月十五日没行年八十二池端七軒町正慶寺葬

高瀬氏俗称太郎兵衛薙髮シテ宗入居士ト号ス又佗心子ト称ス

二條油小路ノ人ナリ一時檀林世ニ横行スト雖師風ヲ改メテ門人示ス

家書 口真似草 鸚鵡集 捨子集

山下水 七十二物争 使舟集 類舟集

古く兄 木玉集 さとゝい 落穂集

道連集 等アリ元祿十二年己卯四月八日没行年八十九

梅盛

徳元

懐子集三
上五文字
ぬまてハ
リテ休甫カ
句トヒリ考

未得

安玄 静扎

○立圃ヨリ梅盛マテ貞門ノ七俳仙ト云

齋藤氏通名齋宮濃州岐阜ノ人織田秀信ニ任テ後薙髮シ
テ徳元ト号ス又帆亭ト称ス江戸馬喰町二丁目ニ住ル或云江
十八年或人ノ需ヨリテ初学抄ヲ編スコレ江戸ニオイトテ排書
ヲ刺スルヲ始ナリ晩年若狭ニ於テ没行年詳ナラス法名齋入ト云
辞世 今まろでいのきたての月夜ノ如

石田氏通称又左門乾堂ト号ス江戸ノ人ナリ故アリテ相州ニ隠ル
再江戸神田鍋町ニ住シテ未得ト改メ後京ニ上テ令徳ニ親ク貞翁ノ
門入トナル誹諧ノミナラス狂歌モヨクス慶安中吾吟我集ヲ著シテ
ヨリ芳名高シト寛文九年己酉七月十八日没ス行年八十有余
浅草誓願寺ニ墓アリ 牌面曰自性院未得居士

高嶋氏通名詳ナラス江戸本町四丁目ニ住シテ醫ヲ業トス
一年上京シテ門人トナル没年未考明暦二年十種千句ニ卷アリ
菟野氏似空ト号ス又似空軒トモ云 貞翁ノ末弟ナリ家書
余不延細布 鄙諺集 如意宝珠 等アリ
延宝四年没行年不詳 延宝四年ノ家譜ニ貞享三年乙巳

詳家系圖

休甫

二月十九日没行年八十トアレトモ誤リナリ

津田氏本姓守江齋ト号ス大阪生玉ニ住ス俳腸オソカラ一風アリテ
塙ノ弘永蕉門徒然坊ト伯仲ス平日物ニ拘ラザルノ一奇人ニテ入モトム
六俳句ノ下ニ休甫居士キト戯書シトソ明曆頃カ六十三ニテ没ス

辞世我命とも七九の鐘木杖金分りても南無阿弥陀佛

承應元年立圃選メル方句集ニ樽屋休甫ト云入アリ別人ナリ思
ヒ惑ヘカラス尚此叟行状等ハ東庸子ニモ見エタリ

越前敦賀本勝寺ノ住職ナリハヤクヨリ翁ノ教ヲ受テ秀吟尤多シ
寛永六年霜月下旬京妙満寺百韻法式ノ開筵ニモ連座セリ

實ニ七俳仙ト雖上ニタニ一難シ没年詳ナラス

池田氏通称重即左門大和國郡山城王本多内記政勝ニ任フ初貞室
ニ隨ヒ後直弟トナル狂歌ヲヨクシテ名ヲ古田造平郡實概ニ入トス寛永

ノ頃重頼毛吹草ヲ選スル時此叟ノ句ヲ卷頭ニ置ニトヤクシナガラ
我徒ノ春可俳諧奇人談ニ浪春頭誤句ニカヘタリ式叟ノ誓ヲ変セシラ憤リテ毛吹草

ノ批言氷山同書ニ氷室寺ニヤマルトイヘル書ヲ著スコニオイテ兩人間大ニ相水火
セリトソ没年詳ナラス 寛文七年ノ印本京童跡追ニ日蔭者ト

正式

日能

道節

かなり侍りて下前書シテ「ワケウケヨクとやせむ小老乃ま
トイフ吟アルハ寛文中ニモヤアラシカ

未吉氏通称詳ナラス父増重通称太脚兵衛 摂州平野人也
寛永中徒然草成親僧都ノ事ヨリ「トイハ雪女リヤ

白うりりトイヘル未乃吟ヲ吐テヨリ人稱シテ白駒流里ノ
道節ト云又西武ノ筆ヲ執リシ鷹菟波集ハ節子ノ骨折

ヨリ成就スル所ナリ承應三年没スト

内海氏通称長右門名久重六字堂ト号ス京師久ナリ
誹學頗高シ曾テ居所梅盛ト近キカ故寸隙アレハ相

共ニ誹事ヲ談スト家書 松葉集アリ

端氏通称ハ長兵衛風船子ト号ス京師久ナリ秀逸ノ詠
吟尤多シ就中寛永ノ頃「山の口おちきさる月の餅々」ト云

句ヲ吐テ貞翁ノ高點ヲ得タル事アリ其時ノ句調思ヤルベシ
泉州塙北庄正法寺ノ住職法名詳ナラス泉國ノ魁首タリ

初慶友ヲ師トシ後貞翁ニ教ヲ授ノ家書「ハ兄草アリ
没年詳ナラス寛文ノ後撰夷曲集ニ「親もろ子とあはれし

成安

定重

宗惠

非家系圖二卷

是誰

金もたの〜かぶ斗りハかりりひるりト云セテ辞スル詠アリ
○以上親重ヨリ成安ニ至ル十八人ニ守武。宗鑑。光廣卿。法
印玄旨。兼戴。法橋由巳。貞徳。愚道。慶友。春可。利清。
嘉隆。望一。弘永。幸和。昌意。空存。宗因。十八人ヲマジテ
誹仙三十六人トスト萬治三年梅盛門子野田本春冊子ナリ
池田氏通称詳ナラス落葉堂秋風子ト号ス播州姫路ノ人
ナリ一年上京シテ青地可頼。住田正信。ノスニヨリテ貞室
ノ門人トナリ聖廟獨吟百韻ヲ連ス後翁ノ直弟トナル
家書 破詈魔 初元結 播磨姫路

玉く〜け 呂 玖 呂 等アリ

京師要法寺任職

法名日躰上人 或書ニ云日禮

京師妙満寺中成就院ノ

住職法名日如

太田氏通称多兵衛紀州若山ノ人ナリ

家書 塵囊集 四卷アリ

友閑 素休 定時

可理

定之

可頼

宗明

加友

守榮

氣求

大橋氏通称新之丞

加州金澤ノ人ナリ

南部氏通称清右門

青地氏通称市郎右門京師ノ

人ナリ貞室ト親ム深シ

板原氏通称三郎兵衛紀州若山ノ人ナリ天子集ヨリ秀吟

多クイレリ没年詳ナラス寛文ノ古今夷曲集ニ辞世ト云フ云々

死スル服ヲリ火トツケテ何トモいハシクはなして多ク云々

伊勢松坂樹教寺中法樹院住職般舟菴又春陽軒ト号ス

初ハ望一門人ナリ後貞翁門子トナル晚年同國山田轉住

家書 伊勢ヨリアリ

京師五條寺町養泉寺ノ

住職

大和田氏通称又三郎名氏満弱冠ヨリ廣ク和漢ノ書ニワタ
リ殊ニ字義ニ委シク著述數編アリマニ畧ス誹道ノ書ハ

貞利

一 雪

繼立集三卷アリ没年不詳或云貞翁没後西武二隨トモ藤谷氏通称甚三郎恂節ト号ス

京師ノ人ナリ貞兼ノ兄
棕梨氏通称三郎兵衛牛露軒又柳風菴ト号ス京師ノ人ナリ江戸阿波慶喜ニ歷廻ス貞翁没シテ後西武梅盛等ニ遺事ヲ傳フ 家書

晴小袖 糊あしりえ 鋸 屑 茶抄竹
せんぼりの ふくさとの 言羽織 作者尽

等アリ没年詳ナラズ家譜云延宝八年庚申九月日没ス行年六十トアレ不審アリイカントナレハ元禄九年刻

セシ本朝武士鑑ト云ル冊子アリ只舊作ヲ後ニ印行セシ物カト思ヘト序ノ文ニ武道傳來記ノ事アリハサニモアラス尚ヨク考ヘシ

有馬氏通称意菴号壽白江州坂本ノ人ナリ
医ヲ以テ業トス紅梅千句發起ノ人没年詳ナラス

半井氏泉州堺ノ人ナリ父ハ温野慶友 牡丹花肖柏ノ男弱冠
ヨリ和漢ノ書ニ眼ヲサラシ連誂ノ二道ヲアキラム又狂歌ヲ

友仙

ト 養

ヨクシ自詠スル処ノ歌ニ卷アリ号シテト養狂歌集トイフ家業ハ医道ナリ是又衆ニ秀ス晩年 台命ヲ蒙リ幕府ニ給仕ス延宝六年没ス行年詳ナラス或書ニ一号ヲ云也トアリ或ハ又父慶友一号トモ云是非ヲシラス

京師寂光寺中圓光院ノ住職
師翁没後貞室季吟ニ属ス

藤谷氏通称甚吉名貞好仰雲軒ト号ス又自ラ桂翁ト云京師ノ人ナリ或云兼叟ハ令徳ノ門人ナリ貞ノ字ヲ犯ス

ヲ訝ル是ヲイテ令徳誘フテ以テ師翁ニ見使テ直弟トス
元禄十四年辛巳十月廿七日没 行年八十七

辞世 月ハ弥陀やさしや二十法来迎
東海氏通称茂右門
京師ノ人ナリ

松 正 堅 頼

貞 兼

泰 圓

宮川氏通称守兵衛名正行後正申ト改又松亭子松亭軒トモ号ス薙髮シテ松堅ト号シ道柯居士ト云菴アリ枳園ト名ク大佛殿ノ南ニ在リ蓋シ是師翁與立ノ遺跡ト

堅叟没後門人コレヲ傳フ

家書

誹諧良材

あはを千句

和漢千句

歌仙自註

等アリ

享保十年丙午二月廿三日没行年九十六

辞世かり色地水必用も之をあり何いそく福の砂をよみし

静 壽

川崎氏通称源太
攝州大坂ノ人ナリ

胤 及

岳本氏通称仁意医ヲ以テ業トス備前ノ人ナリ後季吟
ノ門人ナル家書 鉤 骨 角 柱 千 句

一 村

等アリ肩入奉公返答大長刀ニ延宝四年没ストアリ
平澤氏通称古筆勳兵衛薙髮シテ了任ト号ス法名無ニ
佐男ナリ今出川新町ニ住ス書ヲ能シ立甫發句帳四巻此子

元 知

ニ筆ヲ執シ慶安三年庚寅十月廿八日没ス行年詳ナラス
西田氏通称三郎兵衛京師ノ人ナリ
家書 拾玉集アリ没年不詳

宗 畔

馬淵氏通称詳ナラス名重治京師ノ人ナリ性稟閑雅ニ
テ言語スクナシヨリテ武陵へ居ラ移ストイヘ用ヒラレス

保 友

承應四年中風オコリテ没スト云

梶山氏幼名ハ多吉後吉左門ト改ム薙髮シテ宗吾居士ト号ス
海嶽菴無心子ト称ス攝州大坂鍋町ニ住ス人ト成淳朴ニシテ
諸賢子ト争事ナシ朝暮誹句ヲ吟スヨリ外ノ業ナシ是ニヨリ
テ此叟詠吟撰集ニ入ラサル甚モワテ稀ナリ 家書

玄誹諧葛集

獨吟千句

大硯集

根柢草

没年詳ナラス案ニ元禄ノ末カ

不 存

清水氏通称孫三郎薙髮シテ春流ト号ス尾州名越人也
園山集ニ名越ト云ル後浪華ニ移居ス尾陽ノ魁首タリ一号吸月堂ト云

家書

尾陽句帳

徒然草新註

續つねく

等アリ没年詳ナラス案ニ貞享ノ頃カ

友 次

吉田氏通称六左門一醒ト号ス或ハ又無能子ト称ス尾州名
古屋ノ人ナリ 家書 藪香物 和漢両吟

阿波手集

八百韻

等アリ没年詳ナラス

ノ 身

池田氏通称又三郎尾州名越ノ人ナリ没年詳ナラス○
不存友次ノ身ヲ尾陽三哲トス

謝家大系圖上卷

燕石

政公

道甘

之次

正哲

顯成

正平

富永氏通称治右門土佐國ノ人ナリ或書ニ浪卷ノ人トス
誤ナリ安井燕石トテ別人ナリ 家書 牛飼集アリ
五十嵐氏通称忠右門
京師久 没年不詳

高瀬氏通称弥三右門名正代薙髮ノ道甘或道ト号ス梅
盛力光ナリ城南伏見ニ住ス樂々菴ト号ス家書 絲瓜草
花ノ露 人真似 是ナク草 等アリ

或書ニ云立甫門人凡 元禄四年辛未二月十昔没行年八十二
伊勢村氏通称九兵衛薙髮ノ意朔ト号ス招鳩齋ト称ス天
坂麴堀ノ住翁没後季吟ニ属ス
足立氏名元信

京師ノ人ナリ
山井氏通称林菴名定宣阿知子ト称ス泉州堺南ノ庄ノ人ナ
リ医ヲ以テ業トス家書 境界集 同後集 手ノり舟

黒田氏通称源左五門
南紀若山ノ人没年不詳

正盛

浄久

重春

良保

蟬吟

三信¹

加友

今西氏通称共三兵衛大和國今井邑ノ人ナリ
家書 耳ナク草

三田氏通称不詳河内國柏原ノ人
家書 河内名所記アリ

野田氏通称弥兵衛宗ニト号ス京師二條寺町ニ住シテ
物ノ本ヲ鬻クヲ業トス

片桐氏通称清右衛門三夢ト号ス又乙元子ト称ス京師久始
令徳ニ隨ヒ後直門トナル 家書 獨歩集

十句 辨説集 風俗集 たるむれ草
破枕集 等アリ 没年詳ナラス

藤堂氏通称新七郎名良忠 藤堂侯ノ臣
師翁没シテ後季吟ニ属ス

竹内氏通称市左衛門或言左衛門一葉子ト号ス
勢州松坂ノ人師翁没後季吟ニ属ス

荒木氏通名恭菴江戸ノ人ナリ
家書 繪ヲらまきアリ

非家大系圖上卷

〇十

一 入 玄 賀 重 勝 貞 晨 貫 風 以 重 氏 重 一 正

石倉氏通称三郎兵衛容膝軒
ト号ス紀州熊野長嶋ノ人ナリ
小谷氏俗称甚太郎名久惠薙髮シテ玄賀ト号ス又自立静
子ト称ス京師ノ人ナリ家書 四季の友 道つれ 等アリ
筒井氏通称井筒屋庄兵衛京師二條寺町ニ住ス
俳道ノ冊子嚮ラ業トス
中嶋氏通称内蔵之丞初名貞義又改貞宣ト云京師ノ人ナリ
近世刻行スル冊子ニ蝶々子貞宣同トセリ今 鸚鵡集ヲ以テ改
加藤氏通称詳ナラス空所子ト称ス京師ノ人ナリ貞室ト親シ深ク
重頼撰集ノ批言步行神ト云ル書ニ卷ヲ編ス或曰名勝明トモ
澁谷氏紀伊守京師ノ人父ヲ淨安ト云
連誦ヲ能シテ貞翁友ナリ
渡邊氏通称吉兵衛
京師久没年詳ナラス
柏井氏通称多在門
泉州堺久没年不詳

屋 勝 每 延 子 如 貞 種 政 盛 庸 貞 祇 安 明

津田氏通称二郎兵衛
後道意ト改公撰州池田久
橋本氏通称善四郎
尾州熱田ノ人没年不詳
大津氏通称勘兵衛
名良弘撰州大坂久
佐枝氏通称傳兵衛函泊子
ト号ス尾州名古屋ノ人ナリ
藤木氏通称七郎右門薙髮シテ了因ト号ス或 吞舟軒其
山子ト称ス横羽大坂ノ人京師ニ住ス平澤ヲ佐門弟トナリ古筆鑒定
ニ達ス 家書 頭傳明名錄 好色大鑑 等アリ没年不
詳或人云元禄年間七十有余ニテ没法名古室了因居士ト云
伊藤氏通称八十郎
伊勢桑名ノ人ナリ
渋谷氏通称新四郎貞門ノ老弟ナリ
大坂ニ住ス男ヲ長藏ト云是又俳諧ヲヨメ

言當

正直

一景

元正

臨淵

滿足

足村氏通名淀屋某ト云薙髮メテ菴ト称ス
茶道ヲ善ス浪卷ノ豪福ナリ

鈴木氏俗称平野屋重兵衛
京師人

松平隱岐守名定行祝髮シテ直昌ト号ス
本姓泰氏幼名十太夫伊豫ノ松山ノ城主

柴田氏通称半左門初ノ名如心京師人
後李吟ニ属ス家書 天神奉納集アリ

加藤氏名等空冬木翁ト号ス又磐岩斎ト称ス攝州ノ人ナリ
京師ニ住ス師木嶋ノ道ヲ翁ニ学ヒ旁ニ俳諧ヲ善ス歌道ニ
名アルハ普ク通ストイハレ俳諧ヲヨクスルヲ知ル人マシナリ

岡田豊前守名善政美濃ノ人或書ニ近衛殿 應山公ニ任フト
云歴代滑稽傳曰足田將監ハイハレ名アル人ナリ美濃ノ國

の産トセ近衛殿御見舞トされらばハ五月雨よりこきと
きたも次はの者といはれハあれはあのはと探を構づとい
と云服と分てナキハれありトニナリ没年詳セズ

文明

久次

三保

長吉

宗利

玄康

定次

影山氏或藤通称七郎左衛門大坂人後休安ト改ム
浪卷俳仙ノ一人ナリ

田中氏通称伊大夫淡路侯ノ侍臣
家書 小鏡アリ

堀江氏通称八郎右衛門京師人 家書 音頭集アリ或ハ
伊勢松坂ノ住竹内三保選スル書トモ云イツレカ是ナルヲ知ラズ

福岡氏通称加左利屋吉兵衛
京師人

高田氏通称吉兵衛京師芝之圖子人或曰後薙髮シテ宗
賢ト改メ師木嶋ノ道ヲ専門トシ伊勢物語秘訣抄徒然草
大全等ヲ著スト云々

栗田氏名字詳ナラス城南伏見ノ人荻野安静ト友トシ善シ
連俳ニ達シ都下ニ鳴ル○男ヲ玄賛ト云此道ヲヨクス

小島氏通称爲三
丹後人

○貞徳翁ノ添削ヲコレテ風下ニ隨テ騷人其幾計カタカリ爰ニ録スル八十有余人ハ就中貞門ノ博識タルヲ掄ム尤引用スルトコロ百人一句新百人一句三十六俳仙古今百句手鑑等ヲ以テ本據トス然レモ尚遺漏多カルニ後人補正ヲ俟

追考

貞室条ニカコチク慶安三年印卒五之卷ニ曰

「上畧下系のそとくは茶湯に任せておぼれゆくが吉の若ハ
衰はるゝこふ袴袴よつちてたづねあつつきがこま
友あつちゆきこはしをたうりぢれり。いづて
ゆりしそり親ごころれせのたまふも聞ひき次して
雪みりくは庭み出つてあはれあそびこゝる花開のふよ
ういれ「芭蕉のたふさふさてうみだりおちとのこ
ゆはせもよびきみふさふのん代ぢひこま」トアレハ貞
室弱年ヨリ公羽ノ教ヲ受シテ論ナシ滑稽傳コレノミナラ
デ外ニモ謬トオボユルマ、ミエタリ

「花開のふよがし
まは貞徳公羽
ヲサス

○貞徳翁孫弟系

野々口立圃

○正壽野名氏
在兵衛。親善同苗
市左衛門。頼永同苗
仁右衛門

二世
立圃

幸和

万治三十
六俳仙ノ
一人ナリ

野々口氏通称詳ナラス立圃叟ノ孫ナリ正徳享保中入人○
北邑立似撰入聲集及形見草ニ勝重ト云アリ是立圃ノ男カ
江崎氏俗称太右衛門難髪ニテ春學ト号ス又自一翁ト称ス
四條通油小路ニ住シテ醫ヲ以テ業トス性質酒ヲタクニ年
文月十三日酒手ニツマリテ料錢ヲ済ナス酒店ノ下僕ニバク
来ル無為方シテ一首ヲ詠シテ僕ニワタス其歌曰「五月雨や
天のさうてふふりつり雨のあとわかくわめいそく」トナシ讀ミ
ケルトソ寛文十二年印本瓢水
子浅井了意作狂歌ニナリ已往ノ風流思ヒ
ヤルヘシ寛永年間底抜田千句ヲ著ス没年詳ナラス

幸佐

高田氏通称治兵衛幽竹堂ト号ス御幸町三條下ル町ニ住ス漢和ヲ能クス 家書 灯下集 入 船 大 湊

幸忠

俳諧品定 攝本等アリ没年詳ナラス案スル宝永中歿山森氏通称二郎兵衛

定清

京師ノ人 没年詳ナラス 服部氏通称喜三郎齋敷堂ト号ス又鵬鷄子ト称ス京師ノ人ナリ初ハ貞徳翁ノ批判ヲ受ケ後立更ノ門弟トナル

家書 櫻千句 根一草 尾蠅集 等アリ 没年詳ナラス 案スル延宝中歿 百人一句二人ナリ

定武

服部氏定清ノ男通称詳ナラス 元禄四年 當世百人一句ノ一人ナリ 家譜ニ曰定武父号定清立圃門人ヲ著尾蠅集

由的

花軍等之書武者常矩門人元禄年中之点者也云云トアリ予古書ヲ按スルニ常矩門人タルヲ明證ナシ 宇都宮氏通名遊菴頑拙齋ト号ス又三近子ト称ス儒學ヲ尺五堂松永昌ニ受ケ著述スル所ノ書幾訂アリ俳道定豊ヲ

重似

師トス防州畠国久後京師高倉通榎木町ニト居テ儒學ヲ以テ業トス 家書 花見記 日本人物志等アリ 谷口氏通称十郎兵衛同和ト号ス又染山子ト称ス後季吟ニ属シ檀林黨ニ交ル 家書 百人一句 寛文七 新百人一句 年即本

有静

等アリ没年詳ナラス 家譜ニ貞徳翁直門トスルハ非ナリ 井狩氏通称二郎兵衛春夕子ト号ス京師ノ人ナリ中頃ハ季吟ニ属シ 増山乃井ヲタスル後又檀林ノ黨高政ニ隨ヒ屬雅筵ヲ

流味

トモニス 没年未詳 新百人一句ノ人ナリ 井口氏通称新右衛門 京師ノ人

頼富

伊藤氏通称小左衛門 京師ノ人

小哉

矢木氏通称理兵衛李斎ト号ス 京師ノ人ナリ

榮富

速水氏通称市兵衛富竹ト号ス京師ノ佳 没年不詳以上四俳士百人一句二人ナリ

正隣

松木氏通称詳ナラス。立叟直門弟トモ云
一榮子ト号ス東武ノ人

新百人句ノ人

易延

平井氏通称八左衛門
京師ノ人

友貞

井上氏通称重右衛門 渺字子ト号ス京師ノ人 家書
唐人ト云リ 天神法樂集 神子まひ 花いくさ
等アリ没年詳ナラス

百人一旬ノ人ナリ

家譜

花軍ヲ定清トアレト非ナリ

友資

井上氏友貞男
通称詳ナラス

國信

三澤壹岐守殿
京師ノ人

長式

池田氏俗称詳ナラス京師久馬鹿集作者 ○同時ニ
池田常清ト云俳士アリ此人トハ別人歟

玄隆

後藤氏名字詳ナラフ京師ノ人
家書 闇夜舟一卷アリ

常辰

百人一旬ノ人ナリ

隼士氏通称長兵衛松風軒ト号ス又自徳翁ト称ス立叟ノ高
弟ナリ家書 慕啓集 柘木葛 木間ざん 等
アリ 貞享二年乙丑二月九日没行年詳ナラス

常長

隼士氏常辰男通称詳ナラス京師久馬鹿集作者 ○同時ニ
誤リ辰ヲ長ト謬ル欽爰ニ記セル如ク常長ハ常辰ノ男ニシテ
北村立以ノ撰メル入聲集ノ時十三歳 此書予歳年号ナレナリ又
家譜ニ田中常矩ヲ載テ曰常矩ニ不好師父 誹風ヲ春明ニ蕭
新作ニ風流而鳴世或曰矩者常長之甥而長養為子云トアリ

是常辰ヲ常長ニ謬リ其常長ヲ亦常矩ト混乱セシナルベシ
常矩ハ宗因ト雁行シテ一流ヲ起シ寛文ノ末ヨリ延宝天和
及テ四海ニ鳴ルカレバ常長トシルセシ軒号没年等ハ常辰
カ傳ナルベシ尚 慕啓集 柘木葛 等ヲ見

テモ時世ヲ知ラム 此士ノ傳ヲウルサキマテ癖論ヲタラト
人アヤシムベケレト 家譜ニアマレルヲ後人改正セスシテ
近世列スル所ノ書画一覽ヲヨヒ 書画便覽 書画集覽 等ニ載
スルニヨリテコニ及フ

詩家大系

常牧

銀糸田氏名ハ宗雅蘭化堂ト号ス又雲峰子ト称ス京師油小路魚棚ニ住ス 家書 木々々々 冬々々々 幸あきき 万歳集 等アリ 没年詳ナラス 當世百人一句ノ一人ナリ予再案スルニ常牧ハ常辰門弟ナラデ常矩カ弟子歟 延宝七年印行セシ田中常矩 塵取集ニ秀吟多クイリ

由ト

和及

遠藤氏俗称詳ナラス名ハ元重室町今出川下ル町ニ住ス或曰始ハ常矩門人ニシテ矩叟没シテ常牧ニ属スト尚考ベシ 俗姓ハ三上氏或高村露吹菴直唱法師ト号ス洛西壬生村ニ 隱栖ノ水青ノ句アリ 家書 雀 森 水々きのをう 藤波集 ひこむえ 等アリ 當世百人一句ノ一人 元禄五年壬申正月十八日寂 年四十四 辞世「我々も四十四のむらあけの句を

酉生

山口氏始鞭石門人優生ト号ス後故アリテ和及ニ世ヲ續ク 露吹菴ト号ス又喜霍堂ト云優ヲ酉ニ改ム 寛保

二年壬戌正月十五日没行年七十一

辞世「六の道よりくつてさく小安養界の月をさるるむ

文推

長年

ト圃

知徳

種寛

宇野氏群雀寮ト号ス 享保十六年辛亥七月廿日 没ス 行年五十有一 京師ノ人ナリ 姓氏詳ナラス柑拾子ト号ス 京師ノ人 没年詳ナラス 関氏通称理右衛門名昌房京師ノ人立圃叟ノ老弟ナリ 家書 濱萩 小町とより 塵塚集 等アリ 没年詳ナラス 新百人一句一人ナリ 福井氏通称長右衛門初名ハ来徳ト号ス京師ノ人寛永十年ノ發句帳ヨリ始トノ秀吟多クイレリ実ニ立叟下葉ノ高才ナルヘシ。幸和。定清。友貞。知徳。ト圃。常辰ノ六哲ヲ立叟門ノ六点者ト朝江種寛カ集冊ニミユ 朝江氏通称小左衛門名ハ忠榮梅遊軒一風子ト号ス京師ノ人 家書 詞友集 同續 誌心集 俳諧大概

種寛

形見草 等有リ 没年詳ナラス。種寛カ兄ヲ種榮ト号ス貞公羽門下ニシテ小發句帳ヲアラハス或云舎弟トモ

谷崎氏谷遊軒ト号ス 家書 海士釣舟 京師人

貞之

京師人

家書 赤紫

道弘

山田氏倫後朝人 家書 倫後表

如谷

姓氏詳ナラス明道散人京師

如琴

津田氏京師人 當百人一句ノ人ナリ

由健

澤田氏通称三郎左衛門名正成友雪ト号ス京師ノ人ナリ或曰幸和門弟トモ 家書 都草 若竹集 等アリ

百人一句ノ人ナリ

没年詳ナラス 寛文十年印行セシ書目録ニ若竹集 幸和著述ト云

春清

井上氏通称次左衛門昌雲軒ト号ス 家書 鹿鷲集 千句 等アリ又貞室季吟ニ善ク深ク玉海集オヨビ

新続犬禁波集ニ秀吟多クイレリ 俳諧奇人談ニ井坂氏治即左衛門又留雲軒ト号ス承應元年印行セル 誹諧

忠知

神野氏通称長左衛門東武ノ人ナリ此士古風中ニアリテ出藍ノ誉アリ一年 百炭やぶらぬむの雪の枝トイハル秀吟ヲ吐テヨリ人称シテ白炭ノ忠知ト云 白炭ノ句ハ寛文四年松江重頼カ撰ナル中山集只ノ部 其角カ 雑談集 上卷三六丁「上畧されハ白炭と

五十六丁ニ出タリ 其角カ 雑談集 上卷三六丁「上畧されハ白炭と云々」忠知ハ「お月あはらあき身の新居作と様」云々返きわけのうまやせりたるはせよあはらん表のうの依本をさへ忠知子やとくく人し憐れんうほりりり 吾年未だ正凡と云れるもの胸之「えりやゆふくく」朝ほ「け忠知」双なるのさいんやあ布目わあどづも うくゆき塚白ひのせよハ何よたもろんくひまゆし 死後の境未斗小記云々トアレハ卒ヲヨクセサリシヤ尚白炭ノ句ニハ先哲ノ異論モアレトコニイハス

皆 虛

土 牛

定 親

定 用

清 長

成 次

正 春

土佐國圓滿寺ノ住職角茹軒ト号ス家書 世話燒草
四名集等アリ没年詳ナラス素スルニ延室ノ未ツコロ欵

京師本正寺住職法名日逞
新百人一句一人ナリ漢和ヲ能ス

林氏通称勘右衛門名久勝 長女 定親
器水子ト号ス浪卷ノ人ナリ 妹

松岡氏名字詳ナラス 好女 定用妻ナリ通名
東武ノ人 於好女六俳仙ノ人

森氏通称小左衛門遠州掛川ノ人家書 志のふ草
アリ 没年詳ナラス 新百人一句一人ナリ

飯田氏通称又左衛門
初名ハ家次京師ノ人ナリ

由良氏通称八郎左衛門江戸人ナリ歌道ニ達シ連俳ヲ善ス
寛文中九十歳ヲマタスシテ没ス ○元禄三年其角カ

印行セシ花摘集 四月廿日条ニ此叟ノ辞世ヲ載タリ尤如シ
辞世「夏あひや花ハ昨日市ノ風

又同人ノ文集類柑子上巻曰由良正春トシテ人歌連傳アリ
ほゝきやや生涯の癖と〜乃子そよ病と〜終ふ
にそれ人作くおそひひらみくゆりり寛文年中
九十の笑せび〜乃ゆり終ひぬ〜也氏性ハ浮田家の
外戚とらひ侍〜住不〜より〜あけ〜茶茶を
朝ハ薬〜家よむ〜門ハ鮑魚のいきれ〜鼻と
あ〜あり〜下司女あ〜も〜みつ〜欵し
き〜ら〜ひ〜け〜交りあり〜トアリ

東 順

宗 順

常 知

竹下氏通名一赤子ト号ス江州堅田ノ人医ヲ以テ其疾

ニ仕ヘ辞シテ後隱者トナリ江ノニ移リ住ス 元禄六年
八月廿九日没行年七十二 二本榎上行寺ニ葬ル晋子ノ父

辻村氏通称勘右衛門初名ハ長運薙髮シテ 下号
京師ノ人

池田氏通称九郎左衛門名ハ常久
京師ノ人

立志

高井氏俗称詳ナラス松樂軒ト号ス江戸本町四丁目ニ住ス家書 樽木集 思出千句 等アリ没年詳ナラス素スルニ延宝天和ノ頃歿

立宣

高井氏立志長子初名立儀ト云松雨軒窓梅子ト号ス家書 女夫草 櫻々兄 等アリ没年未詳

立志

高井氏立志次男名吉章幼名犬松初松雨軒立詠ト号シ後薙髮シテ和階堂ト号シ父ノ表徳ヲ續 家書 都の枝折 浪卷の枝折 等アリ 宝永元年 甲申八月 没行年四十八 葬ル法名ヲ高林院立志日乗ト号ス

立志

高井氏三世立志男心保和散才初春水又立詠 家書 雪のまゝ 庭のまき 殿中 等アリ 享保九年 甲辰十月廿一日没浅草常福寺ニ葬ル行年詳ナラス

立志

浅見氏通名詳ナラス初名如格ト号シテ我門人後三世立志ノ後ヲ續テ和樂園ト号シト改ム三世立志点印和散才立志ヨリ附属ス飯田町坂ニ住ス没年未考

立和

三世立志門人姓氏 詳ナラス免睡堂ト号

水國

雲津氏鶴隣ト号ス始ノ名ハ晴星又立舞橋町ニ住ス享保年中若年ニテ没ス肖像ハ享保十九年印本岡田

立吟

青璪著スたつのうゝニ出タリ。門人ニ梅國ト云人アリ 小野川檢校系耕軒ト号ス江戸銀町ニ丁目ニ住

信親

家書 饒別五百韻アリ 森氏通称七郎兵衛東武ノ人

重親

家書 信親独吟千句アリ 西村氏通称善右衛門薙髮シテ可玖ト号ス又苦竹軒

長愛子ト称ス浪卷大手筋ニ住ス 家書 遠近集 たつき集 湊舟十方句 等アリ又元禄三年 物見車 トイヘル闘書五卷ヲ著述シテ別派黨ヲ難判ス因是西霍

古根

重軌

定門一英

團水輩怒テ石車あとい牛等ノ冊子作ル没年不詳

飛田氏通称伊右衛門後賀近ト改ム京師ノ人ナリ

家書 詞の友一卷アリ

新百人句 二個

大津住鉄鉞銀治国友

家書 鳴呼立十句アリ

平澤氏了佐男幼名源六郎又三郎右衛門薙髪シテ了

榮ト号ス目利弟二世トス延宝六年午十月八日没行年

七十歳法名即心菴直截了榮居士

定香

重光

平澤氏定門男通称八郎兵衛薙髪シテ了祐ト号ス

又香截子ト称ス目利弟三世トス貞享元年甲子四月

廿日江府ニテ没行年四十七歳法名即性菴直空了祐

居士

平澤氏了佐男通称次左衛門薙髪シテ了雪古筆

賞鑒ヲ以テ業トス 延宝三年乙卯閏四月十四日没

行年六十四歳法名無心菴古雲道樸居士西玉禪寺菴ニ

立似

新百人句

秋月

廣得

友直

方孝

和年

立和

喜多村氏通称休齋名宗清大坂備後町ニ住ス初ハ令徳

貞室ニ從ヒ後立叟ノ門弟トナル 家書 入智集

烏帽子箱等アリ没年詳ナラス案スルニ元禄中歿

片山氏通称清右衛門

名正朝浪老ノ人

藤井氏通称鉄屋與一即ト云

備後ノ國ノ人没年詳ナラス

川崎氏通称源左衛門薙髪ノ宗立ト号ス浪老人始貞翁ニ

隨ヒ後立圃ニ屬ス 家書 拙吟集アリ 同門同名ノ

俳士アリ中村氏通名内藏丞ト云 正親町家ノ臣トイヘリ

川崎氏浪老ノ人書風

方女

方孝妻ナリ才智

衆人ニ秀テ女六俳

仙ノ一人ナリ立圃方

孝三吟ノ百韻筑子

名満直江戸人

非家系圖二卷

元定

馬越氏通称重即右衛門
脩中東御原邑ノ人ナリ

長女

元定妻

鷺水

青木氏通称詳ナラス歌仙堂ト号又白梅園三省軒ノ數号アリ
弱冠ヨリ才智敏人ニ秀テ殊ニ俗吏ノ文詞ニ妙ヲ得テ著
ス所ノ冊子并ノ西霍ニモ劣ラス 家書

俳諧指南

俳諧良材

糸屑増補

誹諧新式

万葉假名遣

春のよめ

つむ草集説

万歳樂付合
故事要言

等アリ没スル年詳ナラス 家譜ニ享保十八年癸巳三月
廿六日没行年七十六トアレドホツカナシ

乘言

尾関氏通称長右衛門
江戸ノ人

親十

櫻井氏名正友
浪卷人

為宜

喜田氏初名為親
京師ノ人

吉恭

酒井氏通称甚右衛門
京師人

立歟

吉田氏
浪卷人

照星

萩原氏
京師人

山石

肥後代宗雲寺ノ
住職漢和善ス

仲昔

中野氏久右衛門
京師人

来安

岩井氏通称源助
京師人

信世

小野氏
江戸人

常倫

東氏名家重
京師人

是雲

朝山氏
浪卷人

嶺利

竹井氏通称勘右衛門
江戸人

通親

森氏
同

有次

岩田氏通称三郎兵衛
薙髮有哉江戸人

恭重

喜多氏
大坂人

知詮

浪卷徳成寺住職
法名詳ナラス

譽文

富田氏通称助之進
江戸人

宗利

北村氏通称市右衛門
江戸人

好與

木村氏
京師人

紅圃

寒川氏
江戸人

痴白

法橋
羨濃人

非家大系圖上卷

世

言...

肩子

庵原氏通称千蔵江加彦根人百人句人

見袖

庵原氏通称久春門名朝則彦根人

定圃

稻熊氏通称七右門浪卷人

吉隆

久保寺氏通称源左衛門東武人

同水

西洞院 権大納言時成卿享保七年薨八十

一止

正親町 権大納言從一位公通卿白玉翁ト号シ風水軒ト稱ス享保十八年薨八十一 御選 雅延醉挂集

曲

七條院 正參議隆豊卿貞享三年薨四十七

宗富

蜂屋氏京師人

宗雅

伊藤氏通称三右門京師人

富平

柴谷氏大坂人

圓立

今井氏了三京師人或曰小川氏家書花文章綱目

松江重頼

○近吉松江氏浪卷人書ヲヨクス維舟叟ト伯中

弘永

姓氏詳ナラス夕陽菴ト号ス泉州堺ノ人後天王寺邑ニト居シテ導ト改ム晩年師風ヲ愛シテ異躰ヲ吟ス或曰弘永ハ重頼カ門葉ナラス友ナリトモ云 家書 獨吟集アリ没年詳ナラス案ズルニ寛文ノ末歟

春可

姓氏詳ナラス朝生軒又織毫齋ト号ス重頼高弟ニテ鶯ノ句ヲ吟シテ毛吹草ノ巻頭ニ出ス寛永年中世ヲ早ウセシニヨリテ知ル人スクナシ或書ニ俗称麻野々ハトアリ考ニ北岩倉ノ乘門後士生村ニ居ラ移シテ唯梅ト改ム或云重頼門弟ナラス友ナリトモ云 没年詳ナラス

昌意

○以上三六萬治二年野田本春ノ三十六俳仙ノ内也

重榮

竹山氏俗称詳ナラス燕遊軒ト号ス竹山定通三即善從弟ト云京師ノ人也家書 短綆集 哥仙發句 等アリ○綾錦 六立圃門人トス又家譜 青木春澄ノ系ニ曰「曾聞

非家系圖上卷

此士當世百人可
ノ一人ニシテ重方
重貞トトキヲ同
シウセシ人ニアラ
ズ

重方

重貞

重好

重山

重供

重種

重頼之徒有重榮重方重好重貞等稱四重為門弟之長
云トアリ予古集ヲ参考スルニ重頼カ徒タル支證ナシ又
あやふきニ立叟門弟ト定ムルモ據アリヤ
望月氏通稱八右衛門紹佐ト号ス初貞徳ノ批判ウケ後
重頼ノ門下トナル復篁内ノ門人トナリ茶支ヲ善ス
望月氏通稱庄兵衛重方從弟ト云京師ノ人兩士トモ没ス
ル年詳ナラス寛文ノ頃五十有餘タル古集ニモタリ

櫻井氏通稱詳ナラス櫻井軒ト号ス魏州久居藤堂彦
ノ家士本共伊賀上野ノ人ナリ寛文年間嘔草とる抄筆
三部ヲ合シテ一書ヲツル號ツケテ公畧集ト云

望月氏通稱藤兵衛初貞翁ニ從ヒ後重頼ノ門下ニ没
ス望月重貞兄ト云
福井氏通稱新右衛門
京師ノ人没年詳ナラス

重昌

千之

千春

行風

徳懐

重長

福井氏通稱七右衛門重種從弟京師ノ人○以上永可。
意方貞山供種昌九人前後百人句ノ人ナリ

大原氏後望月氏ト改通稱詳ナラス露分軒近隣子ト号ス京師
ノ人後宗因カ檀林風ヲ吟ス母ヲ子盈ト号シ誑諧ヲ善ス
大原氏千之從弟通稱彦四郎高倉ニ條上ル町ニ住ス千之ト
俱ニ專檀林風ヲ吟後復正風体ニ皈ル
家書

武藏曲 假舞臺 等アリ没年詳ナラス○或曰兩士モ
ト江戸人ナリ北村季吟門人ト云是非ヲシラス尚ヨク考ベシ
○復曰千春カ妻ヲ綾戸ト号俳句ヲヨクス

浪卷高津ノ隱僧生白菴ト号ス又懐中ト稱ス狂哥ヲ善
ス門弟スヨル多シ家書 古今弟曲集 後撰夷曲集 等
アリ 没年詳ナラス 大坂俳哥仙 延宝元年ノ人ナリ

岨山氏通稱詳ナラス名八重政ト云浪卷ノ人或人曰徳懐カ檀林
ノ俳士管野谷高政カ初名ナラントイヘリ考ヘシ
松江氏通名順菴字玄丹宗眠ト号ス医ヲ以テ業トス
京師ノ人案スルニ重頼親族ナルヘシ

非家大系圖上卷

宗隆

鬼貫

或人云鬼貫ノ二字
ヲ高貴ノ御方キコ
シテテ句ハイト風
流タルニテテカク
ソロシキ名ヤツケレド
エマヒタマヒストキ
テ仙冠ト改タリトイ
ハリ

言水

中井氏通称勘右衛門家名ヲ
笹屋ト称ス京師ノ人没年未詳

新百人二句二人

上嶋氏通称惣兵衛名八治房榎花翁ト称ス晚年囉々塘
居士即翁ト号ス維舟門弟ニシテ宗因カ檀林ヲ吟シ風ヲ
起シテ世ニ鳴ル伊舟風ト云 家書 犬居士 大悟物々花

惠のたゞ 西風三ツ 独吟百韵 有馬日書
七車集 句 選 等アリ元

文三年戊午閏八月没行年七十八 伊丹墨染寺ニ葬ル
牌面ニ曰仙林則翁居士

池西氏通称八郎兵衛名則好紫藤軒風下堂ト号ス南都人
始江戸ニ出テ檀林ノ黨ニ交リ後京師ニ登リ室町榎木町ト居ス

トトセ木枯ノ句ヲ吐テヨリ英名四海ニ夷ク 木枯のそと有晩年ニ
及テ自ラ洛下童ト称ス家書 新道 江戸辨慶

蛇乃すし 東日記 以上江戸ニテ 後様安
都曲集 京日記 京拾遺 毛登我志波
等アリ 享保四年 或己亥九月廿四日没行年 七十有三

門人墓ヲ京極誠心院中和泉式部カ塔ノ傍ニ築ク

言石

金毛

兎水

我黒

幽山

下村氏紫藤軒ト号ス始鞭石ノ門人ニテ優士ト号ス後言水ニ
属シテ言石ト改ム

芳澤氏言水没メ後方山ニ属メ方設ト号ス後再金毛ト改ム
又芳充翁ト称ス 家書 海音集アリ 延享三年

丙寅十月廿六日没行年八十
瀬山氏芳樹軒ト号ス京師ノ人
家書 ひらり帯 一卷アリ

中尾氏李洞軒ト号ス青白翁ト称ス晚年自舟叟翁
改ム 家書 橋立記行アリ 和及法師ト友トシ善シ宝永
七年庚寅十月六日没行年七十有一

高野氏俗称八孫兵衛名八直重丁々軒ト号ス江戸本町川
岸ニ住ス元禄ノ頃藤堂 任口君ニ仕テ竹内爲入ト改ム

家書 江戸八百韵 俳枕 歌林名所追考 等アリ
没年詳ナラス 或書ニ宝永年間勢陽久居ニ於テ没スト云

一三

宗甫

貞盛

正春

長治

空存

姓氏詳ナラス半孤軒

泉即子ト号ス讚州人

林氏大和郡山人自筆

短冊古今短冊集二出

夕右手鑑六宝曆元年ノ

印本大夢菴牛越作

駒井氏泉加塚人成白

玉手貞直称九郎左五門近

仁門人ナリトモ

神田氏京師人

家書かづの川

好道

道清

好永

夏夕

尼島氏通称四郎兵衛

撰羽大坂久寛文初

言没ス云云貞翁直弟

坂民林松軒發句翁

ト号ス京師人後浪花

ニ移ル家書二見卷二

日永氏通称吉十郎可

敬ト号ス江戶人古筆監

定ヲ多ク或旨貞翁門人

山中氏

京師人

川邊氏通称弥左門薙髮シテ瑞運ト更公

泉加塚人始貞翁ヲ隨ヒ後重頼ニ属ス

江北天満川崎街川崎坊住僧家書夢見草アリ寛文年

間没後撰夷曲集二名斗をらまの懐子如三空存

重信行年詳ナラス目うねを来

トアレハ若年六アラレハ〇或云門人テラス友ナリトモ

青雲

松木氏通称詳ナラス松木政則男ト云或云宗因ノ門下ニ

蓮之

松木氏青雲男尺宗瑞初長水素丸等友ナリ家書水心るま

八千夜

洛西嶋原奥村家ノ遊女名ハ尊子ト云吉野ニワキタル名妓

可笑記元本ハ寛

永叔ニテ大本ナリ

武珍

ニ采乃吟ヲ載タリ又同シ頌ノ書可笑記ヲヨヒ東海道名所記

夏虫

等ニ八千夜ノ一見エタリ

方救

複倉氏通称新八没年詳ナラス伊勢山田師職

夏虫

或云杉木望都門百人一首ノ一人

夏虫

伊藤氏通称詳ナラス大和國

夏虫

長樂邑ノ人或云貞室門人

夏虫

平山氏通称孫兵衛名直之家名ヲ奈良屋ト号ス大坂本

夏虫

町ノ人後薙髮方石アルヒハ不琢ト号ス難波色紙百人一首入

排家大系圖止巻

方山

滝氏通称詳トラス東六條御門主ノ家士ナリ招鳩軒ト号ス弱冠ヨリ法橋維舟ノ門弟タリ維舟没後似舟門人トナル且ツ由縁有テ荒木田守武ノ傳書ヲ得タリ初名峯山後芳山ニ改復方山ト改ム自應々翁ト称ス身長六尺有四寸疾歩ト一日ニ三百里盡ス鬚ノ長サ尺餘白キ一如芽前年遊行上人在京ノ日山其會上ニ詣ス人其鬚長ヲ見テ戲ニ視之都下コレヲ賞談ス家書 此箱 枕屏風 曉山集 等アリ享保十五年庚戌五月廿二日没壽八十

雲鼓

堀内氏自ラ千百翁ト称ス五條橋東千觀松片陰ニ寓シ迎光菴ト号ス本土大和人後剃髮シテ法名ヲ助給ト云
家書 家の風 鹿 聞 宿の松
夏木立 西國船 赤馬子 削々夢
等アリ 享保十三年戌申五月二日没行年六十四
再按ルニ吉野ニ堀内閑節^{北臣季}ト云人アリ此士ノ男歟

雲堂

川勝氏畔甘舎ト号ス又吹松菴ト云 享保十五年庚戌五月七日没壽七十

雲扇

井上氏俗称詳ナラス枯木菴ト号ス元如泉門人ニテ伏見ニ住ス犬水ト号ス後畔甘舎ニ世ヲ續テ今ノ字ニ改ム

貞扇

北川氏元浪菴ノ人ニノ才力門人タリ後居ラ京師ニ移テ雲扇ニ属ス東園舎ト号ス寛延三年庚午五月十有没廿四歳吉井氏吹簫軒ト号ス 家書 二日月アリ寛延四年辛未二月五日没行年七十八

雲鈴

居初氏都塵舎ト号ス自年々翁ト称ス京師久家書 頭陀袋 峰 風 御伽櫻 傳授車 雲の臺 等アリ寛延元奎一戊辰十二月十八日没行年七十一

雲峰

海徳

山本氏万龜堂ト号ス 延享二年乙丑三月十三日没行年四十四

鼓山

中村氏琴松堂下号ス 延享四年丁卯九月廿三日没 行年四十六

和汝

北村氏一陽堂下号ス初晚来ノ門人ヲ来没後吹簫軒 門弟トナル

則風

紀氏通称詳ナラス京師久家書 十八百韵大矢數アリ或云 大矢數ハ紀子ニテ多武峯西院ノ僧トモ云

一見

永崎氏通称詳ナラス三樂ト号肥後熊本ノ人 家書 加ノ見マク 肩入奉公 等アリ没年未考

元網

足部氏通称十左門岸和田人 或云江戸ノ住 新百人二句ノ一人

正恒

松村氏通称又左門後 吟松下改ム東府ノ人

正甫

北峯氏通称詳ナラス土佐家ニ 入テ画ヲ善ス泉加思ノ人 江口氏通称三郎空門奥州

塵言

二本松ノ人 新百人二句ノ一人

延貞

高瀬氏通称詳ナラス 伊勢ノ國安濃津ノ人

任口

城南伏見東本願寺門下西岸寺ノ住職歌道ニ達シ連佛 ヲヨクス拜北菴里村昌程 景泰トモ云寛文 六年没五十五歳 門人ナリト云俳道ハ

林元

維舟叟ニ隨フト 没年詳ナラス貞享中ノ 續空栗ニ曰 新年の市慶とハヤチリハ十年ト云吟アリ時代ヲシラム

水野氏奥州二本松人

好元 日野氏奥州二本松ノ人 新百人二句ノ一人

安原貞室

○正好 安原氏通称弥兵衛。諸 西 十左衛門

元次

安原氏貞室男通名詳ナラス蚤歳ヨリ英知ニ出吟尤高シ 玉海集ニ 多ク出ス 承應中十五歳ニ満ルニテ没衆人元次ヲ惜リ甚シ

貞恕

犬井氏俗称ハ治即兵衛名重次薙髪メ貞恕ト改メ一囊軒ト 号ス四條東洞院ニ住ス本土ハ越前敦賀ノ人ナリ万治ノ頃

爰ニ記スル附
合ハ寛文七年
印本 玉海集
追加ニシタカフ
許六輯録スル
歴代滑稽傳
ト異同アリ

歿江州大津ニ寓居ス一年「ハノヒ」
トイヘルニ「道」ハノヒヨリ大津ノ馬糞トイフ名ヲ得タリ室叟病テ歿セシ
トスルニ及テ怒ヲ以テ花ノ本正傳三世トス 家書
蠅 步貞室十句批言 阿太知千句 新玉海集 等
アリ 元禄十五年壬午三月四日没行年七十歳
上鳥羽邑實相寺墓アリ 家譜ニ宝永二年乙酉十月
三日没行年七十歳又同書ニ重次者重頼之從有故為
貞室門人也青木春澄曾有幽契故後属怒云々」
此説甚イブカシ貞怒若年ヨリ室叟ノ門兼タルコト
崑山集 玉海集 ノニ集ラミテモ明證タリ松江重頼
カ集冊ニ怒ノ句一章モミエス

重満

犬井氏貞怒男 業スルニ家譜 安静奈下ニ重門ト云人
アリコレ重満壯年改名スル所歿暫ク新玉海集延享三年
印本
家譜ノ説ヲ交テコニシルス後人ノ考ヲ俟

乾峰

居初氏雲峯カ息初名松鼓ト云外舅乾氏重門翁大井氏
祖貞徳翁ノ傳書ヲ以テコレヲ譲リ與フ故ニ乾ノ字ヲ
以テ名トス云々又貞五堂ト号ス延享三年丙寅十月
四日没行年三十四歳

乾峰

雲峯カ外孫ニシテ乾峰カ甥ナリ初扇峯ト号ス
貞六堂ト称ス明和七年庚寅四月廿七日没四十七歳

乾峰

居初氏貞六堂乾峯カ男初名乾雅貞七堂ト号ス幼ニ
シテ失父獨母ト居テ俳諧ヲ習ヒ長シテ父ノ統ヲ續ク
家書 ニツ白一卷アリ住居ハ松原烏丸西エ入町

祖 春澄

青木氏通称詳ナラス享保十六年辛亥九月十日没行年
未考上鳥羽邑實相寺ニ牌アリ法名カ堂貞眼居士
青木氏通称庄右衛門薙髮シテ貞悟ト号ス又印雪
軒素心子ト称ス晚年自ラ之字翁ト号ス高倉三條

非家系圖ニ載

貞清

貞佐

上ノ町ニ住ス正徳五年乙未七月晦日没壽六十三
藤本氏通称詳ナラス延室ノ新玉海集オヨヒ歴代滑稽傳
等ニ出タリ案スルニ藤本氏トアレハ惠佐男カ幼名ヲ久松ト云
中川氏後水原ニ改ム一軒ト号ス又自短頭翁ト称ス初幸
佐門人後怒カ弟子トナル 家書 御全集解 四 録 过
等アリ延享四年丁卯十二月六日没行年六十有八
辞世 跡ハミヅト一の瀬を以テ鳥哉

八百彦

朝田氏百合カ息ナリ父没ノ後貞佐門人トナル十合齋ト号ス又
後扇翁ト称ス画ヲ善セリ油小路通御池下町ニ住ス 家書
百合追善集 安永六年丁酉三月九日没行年八十一
辞世 東ノ西ノ往々し花の空

十口

青木氏始廣瀬後柳氏 意心齋ト号ス始ノ名ハ貞信又佐徳ト云後
改メ又青木ト更ム 今ノ名更ム晩年清古閑人ト云家書 四季出會 旅亭 記
秩穂 いしまがき 生植箋 禽獸解

喜雲

行事 祿 蔭のまひ 閑居友 拾遺家譜
後拾遺家譜 等アリ京師綾小路通大宮東入町ニ住ス 寛政
三年辛亥七月廿一日没行年六十九
辞世 親近ノ医者ウキヤク油志ガ丸
中川氏通称吉左衛門名重治或云德蘿 髪メート号ス又
山櫻子ト称ス室叟高弟ナリ藝州廣島ノ人京師ニ住ス
家書 京マツル巻 跡 追 都案内者 評
鎌倉名所記 私加多咄 等アリ没年詳ナラス案
スルニ延室中欣寛文七年 跡追ニ高年ナル見エタリ

引牛

貞宣

中川氏喜雲カ息元祿
年中ノ点者没年不詳
神田氏通称左兵衛初名貞頼花樂軒或紅葉軒ト
号ス又自ラ蝶々子ト称ス江戸ノ人 家書 思出草
物忘草 丸ちぎり 松茸草 いこまき
當世男 等アリ没年不詳○享保十七年印本前附

江戸紫ト云冊子ニ蝶々子ノ名アリ此人ト別人ナリ又諸書ニ中島貞宜ヲ同人トス名ノ同シキヨリ混合セシ誤ナリ今鷄嶋集ヲ以テ改メ正ス中嶋貞辰条ニイヘルガゴトシ

山人

神田氏貞宜妻女六俳仙ノ一人ナリ

二葉

神田氏貞宜男通称詳ナラス一年歳且ニ死後まぐは（き）いづく春ト吟シテ當時上テ五文字歳且ニ置カタクヲ善クイヒオセタリト衆人嗟歎セシトゾ

尊明

服部氏通称猪兵衛江戸本郷ノ人

頼直

藤本氏通称詳ナラス河内綿郡ノ人

是計

茵井氏通称八郎兵衛江戸ノ人

定信

玉木氏通称伊兵衛江戸ノ人

○右ノ外物忘草明曆三年印本思出草寛文九年印本等ニ門人多ク出タリコニ畧ス

善入

再按スルニ山本氏打山氏同人歿室曆十年印本茶室支證下巻見氏云々初穂園ノ社ノ下山依社傍ニ住ストアリ尚ホベシト

山本氏通称善兵衛京師東洞院ノ人

小督

善入妻貞室門弟玉海追加秀吟多ク入

榮春

○同時同名ノ俳士有リ宇治ノ住ニテ村山氏意計ト号ス又一号ヲ喜斎ト称ス茶道ニ達シ連俳ヲ善ク寛文十一年印本兼折宗臣侯ノ大海集ニ秀吟多クイレリ井足氏喜之カ母ナリノ一人ニメ杉木光女栢原ノ捨女ニモ劣ラサルノオ女タリ夫ニオクレテ尼トナリト尼号ス其前ノ没年等詳ナラス案スルニ寛文ノ未延室ノ始歟

喜之

井岡氏通称弥兵衛友硯ト号ス性質淳雅ニシテ人ト交ラス四時ノナガメゴトニ母カ自ト共ニ行テ俳句ヲ吟ジ刀自ガ樂ヲ見テ己ガ喜トスト実ニ深草ノ元政ニ耻ザル風ナリ駿州久能山德音院住職法名没年未詳

和俊

延澤氏本姓寺井氏通称詳ナラス破扇軒ト号ス江戸ニ住ス本去尾州熱田人○書画便覧ニ延澤ヲ名トス大ナル謬也

非家系圖ニ登

卅

惠佐

素謙

貞因

藤本氏通称久兵衛名久惠京師ノ人初貞翁批判ヲウケ翁没ノ後貞室ニ属スト云々新百人一首ノ人川地氏通称又兵衛名正量後素謙ヲ素軒ト改ム大佛妙法院ノ家士俳諧師手鹽延宝四年印本ノ人榎並氏通称鯛屋善右衛門菓子ヲ造ルヲ以テ産業トス曾テ山城大掾ニ任ス貞室天水鈔ヲ以テ因ニ授多因机上置テ朝夕コレヲ珍愛ス一号ヲ白后齋ト云元禄十三年庚辰三月廿三日没行年八十歳浪老俳仙ノ一人ナリ

貞柳

柳叟辞世ノ吟ハ置産ニ肖像トモニ出タリ

貞因男通称善八或忠兵衛初名良因家譜ニ言因後信乘トハ誤ナリ薙髮シテ貞柳ト改ム油烟齋鳩杖子ト称ス又助榮亭長生亭珍菓亭圓果直子清雲洞等ノ諸号アリ復豊藏房信海ヲ師トシテ狂歌ヲヨクス家書家土産續家土産等アリ享保二十年乙卯八月十五日没ス行年八十一大坂下寺町三墓アリ辞世「百居し心あやうはせり花月まはるる白妙」

貞峨

古書ニ初名昌因トアリ

○再曰狂歌ノ一道貞徳未得ト養信海行風等專詠トイヘドモ未ヒロカラズ此叟出テ大盛ストイシニ貞因次男曾テ僧タリ黄檗悦山和尚ニ属ス後還俗ニテ滑稽家ヲ立契因ト号ス後貞我菴貞峨ト改ム家書躍布袋アリ寛保二年壬戌十月四日没壽八十再曰元禄ノ頃印行スル金平物語梶久末松山ナドイヘル浄瑠璃節ニ紀ノ海音トセルセハ此叟ノ隠号ナリ

潘山

貞富

言聽

塘氏百子堂ト号ス貞我ノ女ヲ娶テ其脈ヲ續ク浪卷ノ家書橋をいり仙家の杖猫築波掬つくむ餅月夜時雨乃橋等アリ没年詳ナラズ榎並氏貞因從弟花實菴ト号ス家名ヲ鯛屋ト称シ菓子ヲ造ラ業トス南御堂前ニ住ス曾テ生白菴行風ト友トシ狂歌ヲヨクス正徳二年壬辰五月六日没行年七十有餘清水氏通称四郎左衛門京師ノ人没年詳ナラス

兼吉

廣瀬氏通稱喜三郎北勢富田ノ人始貞翁ニ教ヲウケ後貞室ニ隨フ没年不詳 富田政雄團友和涼力撰ノル元禄十二年ノ由花抄下卷ニ曰富田廣瀬氏ノヤクヤク「加々々々」此五條子似り壁ノ草 涼莖ト當座ノ吟アリ

關氏通稱久兵衛

丹羽福知山ノ人

西士貞室ノ五條百句品定ノ人ナリトイフ

野澤氏通稱與兵衛

越前ツルガノ人

隅田氏

浪卷俳歌仙ノ人ナリ

大坂人

垣内氏通稱新太郎

播州姫路ノ人没年未詳

進藤氏通稱理右衛門名利政京師人

貞翁直弟ナリ翁没後貞室ニ屬ス

田井氏通稱七郎兵衛京師祇園ノ社人

没年詳ナラス百人一ノ人

萬疎

永吉

路春

交云

世耻

春丸

貞陸

姓氏詳ナラス江戸ノ人菊岡沾涼ノ綾錦ニ曰「貞陸貞室門人

品川ニ住ス云々佐保今我ノ從弟ニ後川越ニ移ル」予案スル

ニ同書ハヤニ今我ヲ載テ曰「今我云々享保三戌六月十八日

齡六十七ニ没ス」トアリ又皐月平砂兼岡貞佐著ストコロ

而形集ヲミルニ貞陸寛延元年一百歳ナルヨシ賀ノ吟アリ

今今我ノ没年ト参考スルニ年紀不合イカ、

吉岡氏了貞男通稱七郎右衛門備中小田郡ノ人ナリ始メ

貞徳翁ノ門弟ナリ師翁没メ後貞室ニ屬スト云

玄毫甚空門ト云名正安又玄毫軒ト稱ス復自是ト号ス大坂

御堂筋唐物町ニ住シテ筆ヲ製シテ業トス没年詳ナラス

鶏冠井令徳

○妙仙尼

令徳妻女六俳仙ノ人始名未考

○良忠

楓氏令徳弟欽

良次

鶏冠井令徳長子通稱清右衛門

早世力鷹免政波以後集ニミエス

令富

令清

令敬

宗賢

信房

如貞

一品

令德二男幼名清次即壯歲ニ及テ作兵衛又半七ト改ム
初ハ良富ト云歌道ヲ善ス 元禄末頃没六十有余
令德三男通称
詳ナラス

村上氏通称詳ナラス名ハ正孝京師人
家書 枕 四卷アリ。或云令慶

小島氏通称總兵衛京師ノ人ナリ鈴木信房ト計リテ
源氏鬢鏡ニ卷ヲ著ス元禄五年書目錄ニ撰者素柏トアリ大元録
ナリ源氏句金又ニ通達ト同本別刊ナリ

貞享二年京羽二重ニ小島徳右衛門ト有ハ別人歟
鈴木氏通称在兵衛今出川大宮西、入町ニ住ス令徳没シテ
梅盛ニ属ス 家書 茄子喰き 三ツ物 等アリ

井口氏通称詳ナラス貞竹堂ト号ス浪巷間ヲ掘ニ住連歌ヲ以テ
職トス家書 小川十句アリ没年詳ナラス

芳賀氏通名順益名治貞眞靈堂崑山翁ト号ス京師人
令徳没シテ後常矩ニ從ヒ後東武ニ下リ芝又両替町ニト居

シ醫術ヲ以テ業トス初令徳翁ヨリ崑山ノ印ヲ附屬メ

在世コレヲ用ユ又繪ヲ能ス予カ藏スル所ノ一軸菱川師宣
長子師房カ風アリ 家書 如何 万水入海
いふつが 丁卯集 一莖重山 八宗懸隔
等アリ 宝永四年卒ス行年六十有余

藤本氏羽仙齋ト号ス江戸石町ニ住ス
享保初頃没ス 行年未考

神尾氏
江戸ノ人

古跡氏通称久米之助尾州ノ人慶安四年印本尾陽句帳
ニ秀吟多ク入レリ没年詳ナラス

一原氏通称詳ナラス尾州名古屋ノ人 或云貞翁直弟ト
モ云新續獨吟集印行年号ナシ
案云延宝欵ニ貞徳翁判ノ百韻アリ

揚州大坂初瀬町東願寺ノ末寺了安寺ノ住職法名單念
復單信ニツクル 或云貞徳翁直弟トモ 没年詳ナラス

案スルニ延宝ノ末天和ノ初頃欵 俳諧師手鑑ニ出ス

芥銭

虚堂

伊人

友我

夕翁

友三

奥西氏通称市左衛門
名ハ義茂京師ノ人

谷風

中村氏通称詳ナラス

瑞竿

家書 廿日鼠一卷アリ

常春

石川氏

常英

京師ノ人

常清

服部氏通称詳ナラス眠柳亭ト号ス元禄四年印本江水
撰メル當世百人二句ノ人正徳五年乙未八月十日没行年七十二

安山

志水氏通名詳ナラス恕近子ト号ス後出家ノ日柳ト云
没スル年詳ナラス

延清

享保十九年甲寅五月十六日寂ス行年六十九

安山

辞世「いつくも息引とるが身の歳暮
河野氏通称詳ナラス鶴毛翁ト号ス 元文三年戊午
七月三日没 行年六十五

和吟

别所氏名字詳ナラス或云常英門人ナリト宝曆八戊寅年正月
三日没行年七十三辞世癖みなりて西をかみくも初且

暢好

平岡氏文蛤子ト号ス享保十六年辛亥十月二日没行年甲辰
辞世「とる一季スるぬ夢のわつとら那

經定

山本氏規矩妙子ト号ス 享保十九年甲寅二月廿六日没
行年四十八

歌鳥

隱僧春扑ト号ス享保十六年辛亥正月十六日寂ス
齡四十有六京師ノ住

之水

細井氏成江堂ト号ス宝曆土年辛巳六月二日没行年七十三
辞世隨縁の浪くらやんぬ夏の箱

二世之水

細井氏之水息明和六巳丑年九月九日没四十四末期門人等請寄
書河形投筆死スト云々

重俊

西村氏通称次左門初名重直京師ノ人
家書 名所付合集アリ

愚堂

人見氏俗稱詳ナラス芥耳軒ト号ス 享保十五年
庚戌七月十七日没行年四十八

虚舟

黒瀬氏不識亭ト号ス虚舟ノ字尊貴ノ諡号ニ類ス故ニ後去舟
ト改明和六己丑年六月十六日没壽八十 辞世不來不去佛祖

定房

戲論未後一句日新 底ぬちやうらぬ祿の臥院ふらり
廣岡氏俗稱ハ紅屋弥兵衛薙髮トテ
宗信柳兩軒ト号ス浪卷ノ人

自安

姓氏詳ナラス真笑軒ト
号ス京師人 橋本氏
京師ノ人

行誓

京師勝満寺住職 福地氏
新百人二句ノ一人

浪卷俳歌仙ノ人

富長

橋本氏
京師ノ人

満重

福地氏

京水

鳥川氏

誹家大系圖上之卷

畢



入江女

